

2016年4月  
1094号

# 万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

## 未来からの使者 21世紀の大人材

### 清泉インターナショナルの少女たちと研修会 ～テーマ「日本女性の地位について」～

レソト王国大使のご息女が学校のレポートで日本女性の地位について、学校のお友達数人と一冊の会の大槻会長にお話を聞きたいとの申し出がありました。来所は午前11時半とのこと。連絡がうまく取れず一体小学生なのか、中学それとも高校生なのかもわからないまま、ランチの用意。イスラム圏の方がいらしたらお肉は駄目だからと、子ども用と大人用の甘辛2種類のカレー、その他にちらし寿司、ハムを入れないサラダを作り、女性の地位についての資料を揃え、国連マークのファイルに一冊の会のロゴをプリントした用紙を入れてメモが取れるようにとセットしてプレゼントを用意。いつも万全の体制を整える大槻会長の姿がありました。いよいよ4月14日、ランチタイムに現れたのは愛くるしい小学6年生の少女たちと付き添い兼通訳のお母様でした。

最初に自己紹介、石田理事長、大槻会長・小山事務局長、お二人の名刺が配られると一人前の大人として扱われて、少女たちはなんとも言えない満足の表情でした。参事の箱根も同席させていただきました。次は彼女たちの番です。



見るからに元気なニーマちゃんはタンザニア、長身のヴァネッサちゃんがレソト大使のご息女、イエージちゃんは韓国、ミキちゃんはスウェーデン人のお父様と日本人のお母様のハーフ、そのお母様、ヘガストロム・ユーカさんが保護者兼通訳をつとめてくださいました。4人はレポートのテーマに日本女性の地位を選び、それぞれ質問を用意して来ました。

まずヴァネッサちゃんとミキちゃんが何故一冊の会の活動を始めたのですかと質問。石田理事長からの懇切丁寧なお答えに皆さんニッコリ。一冊の会の運動で何か効果がありましたか？と第2の質問。石田理事長より歴史を辿って日本から世界へと交流が広がった経緯を説明すると、ウンウンと子どもらしく頷きつつ、次の質問に一。ニーマちゃんは日本の女性の地位は着実に向上していますか？そして政府、特に安倍首相は女性に十分な支援をしていますか？でした。小山事務局長は男女同権が明記されている憲法上の立場から現実の難しさ、国民の意識を高める大切さを語られました。

するとヴァネッサちゃんは、意識が変わるのには時間がかかるので、その間に嫌になったり、あきらめたりする気持ちにはならないのですかと、鋭い質問をしました。それに対して大槻会長から、「人間は一人残らず幸福になる権利がある。私たちは「人権」を根本に置いて“一人も置き去りにしない”という目標に向

かい絶対に諦めない、人々の意識が変わるのには時間がかかるけれども世界の人々と交流し、話し合いの対話を重ねながら小さな歩みを積み進めています」という確信に満ちた発言がありました。

イエージちゃんの質問は憲法では同権でも女性の地位は男性より低いではありませんか？でした。憲法で男女平等でも実際は差別があります。給料にも差があります。ですから今、「202030」運動という目標を掲げて政治の分野でも、企業の分野でも、2020年までに女性のリーダーを30%にするという目標に向かって取り組んでいます。人材を育てるには時間がかかります。安倍政権も女性が活躍できるように子育て支援の充実に努めていますが、現在問題になっている保育園の待機児童について、場所の確保、施設や保育士の数、保育士の待遇改善や保育の質の確保など、問題山積の状態が語り合われました。



ミキちゃんの質問は一冊の会にとって何が一番やり甲斐ですか？というものでした。箱根参事から最終的には世界の平和、それにはいろいろな国のことを理解し、お互いに助け合っていくこと。一冊の会は、これまで阪神淡路大震災、中越地震、スマトラ沖地震、昨年のネパール地震など、世界中の被災地へ活発な支援を行ってきました。2011年3月11日の東日本大震災でも101回支援を重ねました。大槻会長より復興記念植樹など様々な支援を続けていますが、タンザニア、レソト王国の政府や大使の皆様には東北に足を運んでいただけて本当に感謝していますとお伝えくださいとニーマちゃんヴァネッサちゃんに会長からお願いすると二人ともにっこり。また、イエージちゃんには一昨年、FAWA（アジア太平洋女性連盟）の総会がソウルで開催された時には大変お世話になったお礼が伝えられました。

石田理事長からは清泉インターナショナルスクールで様々な国の子どもたちが仲良く学んでいること自体が大変意義なことであり、素晴らしいテーマのリポートの研究で一冊の会を選んで下さって、大変有意義な時間を持つことができたことに感謝を述べられました。そして「皆さんとの懇談の様子は世界中に居る一冊の会のメンバーに伝えます。一冊の会は、ますます活動が活発なるでしょう」と一冊の会のネットワークを紹介しました。

最期に小山事務局長より一冊の会が今、一番熱心に取り組んでいる活動として「黄色いハンカチ支援プロジェクト」の説明をしました。東日本大震災から5年経った現在も、まだ励ましのメッセージを送る必要があります。皆さん喜んで同意し、ハンカチ記念撮影に参加。授業の一部である勉強会を無事に楽しく終了しました。

付き添い兼通訳を担当して下さったヘグストロム夫人のお話では、米、英、仏、独などの国では日本の海外の日本語学校のように自国の小・中・高校があり、中国も中華、台湾、韓国も韓国・朝鮮の学校があるので、清泉インターナショナルスクールはそれ以外の国の生徒が通っていることを教えていただきました。

なお、スウェーデンは男女同権先進国のように言われていますが、政治の分野では女性が結構活躍しているものの企業の役員などはほとんどが男性で、労働力が少ないためにワークシェアリングといった形で男性女性の別なく働いているだけで給料はやはり女性が低いといった情報も伺うことができました。

爽やかで心温まる研修会を共有出来た私たちは幸せでした。底抜けに明るい“未来からの使者”「平和の天使」は私たちに夢と希望を与えて下さいました。

編集・文責：大槻、小山、箱根